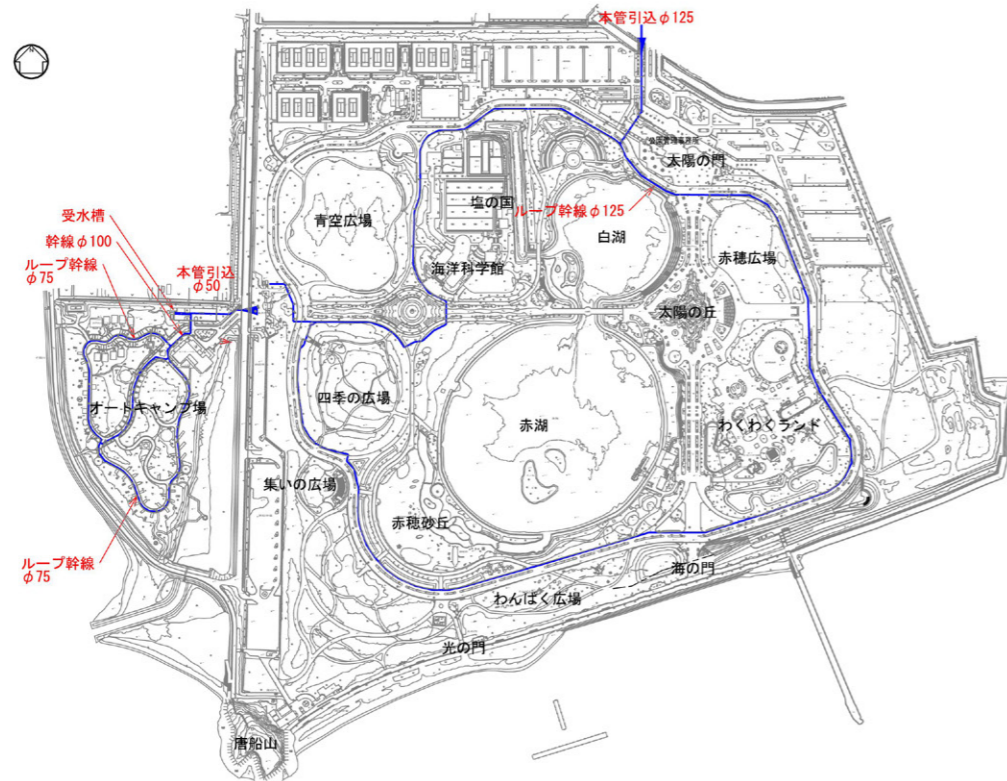


リノベーション実施計画【概要版】

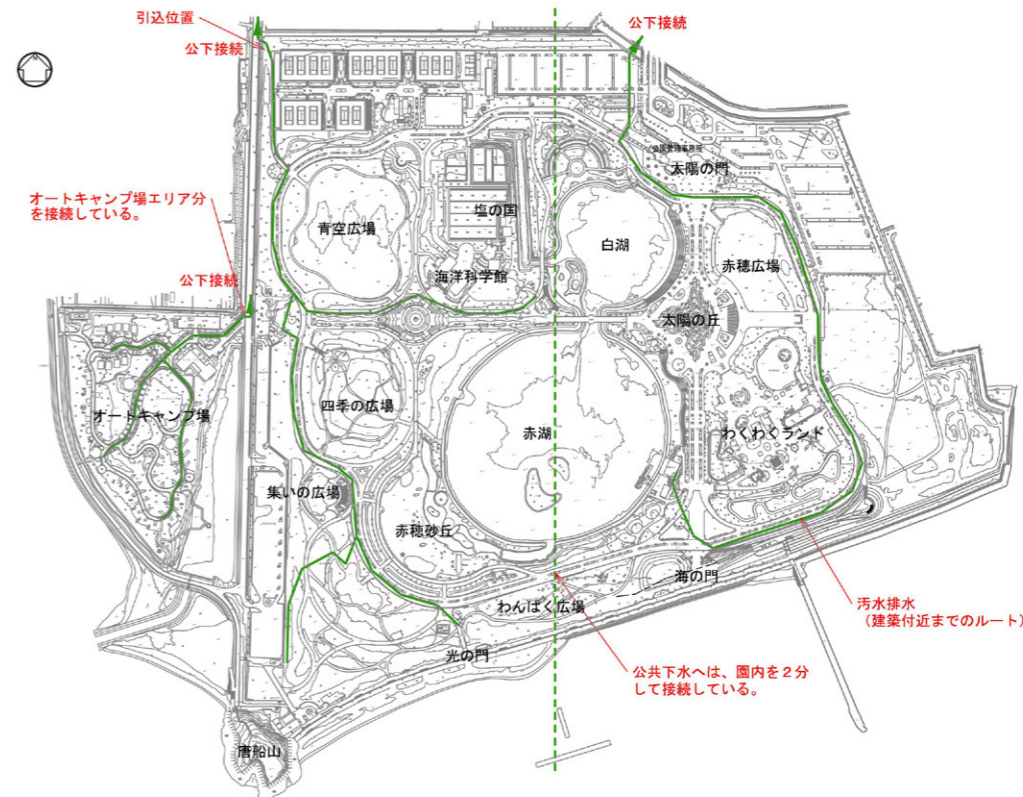
令和5年12月

給水設備



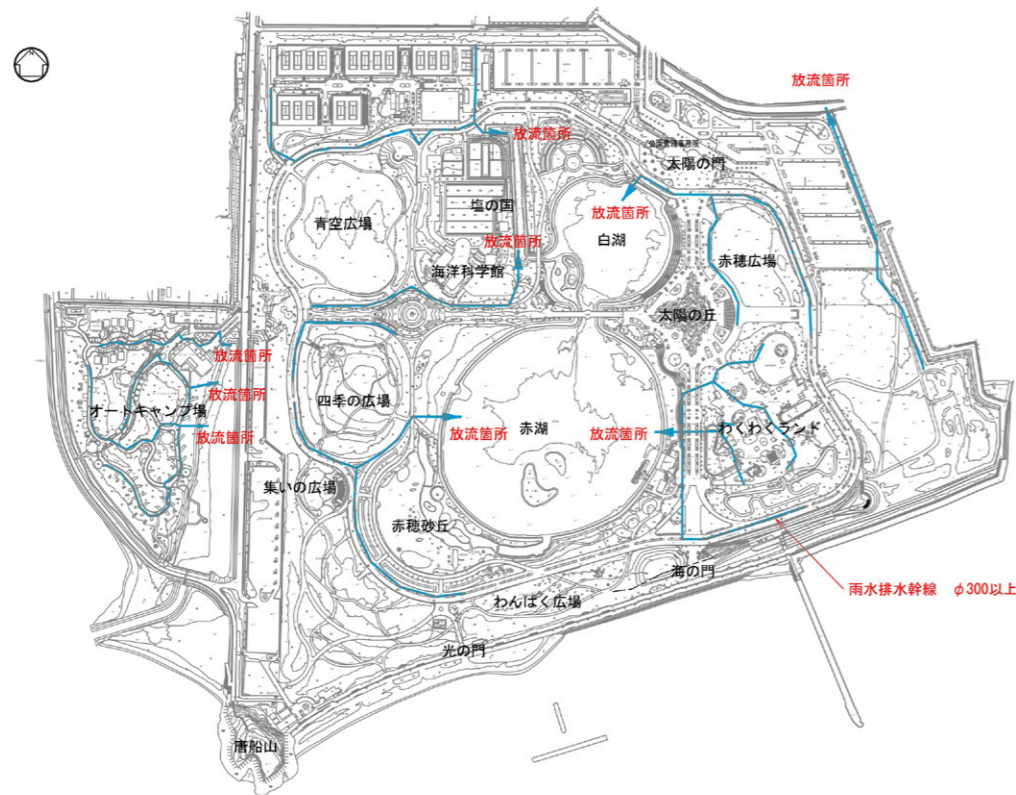
- ・周回園路に沿って、VPφ125 がループ状に配管されている。オートキャンプ場は、受水槽設置の後、VPφ100 でループ状配管としている。
- ・今後の整備等に向けて、各所での水圧を確認しておくが必要である。

汚水排水設備



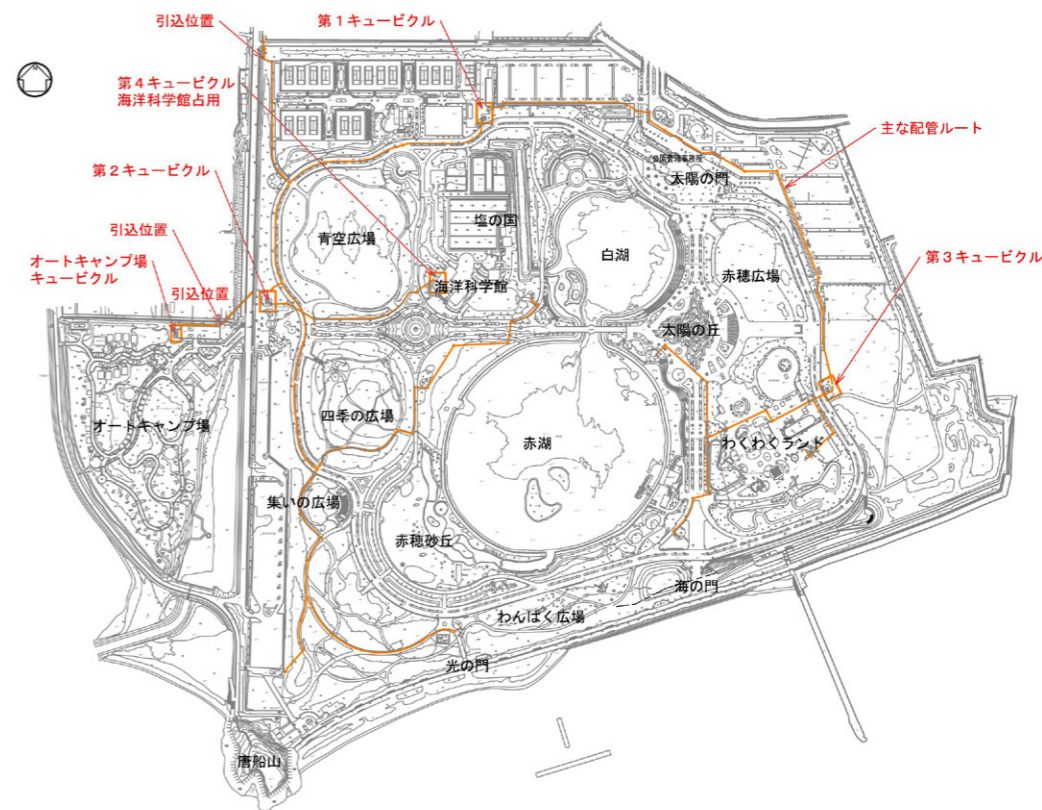
- ・広域下水道へは、園内の2分接続とオートキャンプ場の単独接続となっている。
- ・今後の整備等に向けて、管底高の調査、整理が必要である。

雨水排水設備



- ・9ヶ所（内オートキャンプ場は3か所）での放流となっており、整備を進める状況において流域を把握が必要である。
- ・今後の整備等に向けて、管底高の調査、整理が必要である。

電気設備



- ・園内整備において、第1〜4及びオートキャンプ場のキュービクルが受電点となる。
- ・便所設備修正及び電気設備設計業務を基に、更新改修整備が進められている。

「特色」  
「強み」

多様な海浜環境

塩の歴史・文化

観光利用と地域利用

市民の期待・機運

〈立地特性図〉



〈空間・利活用構成別のリノベーション目標（案）〉

「軸」：公園を象徴する空間として魅力化

- ① 海へのつながりをドラマチックに演出する「海への眺望軸」
- ② 2つの湖や特徴ある公園施設・広場を横断して漁港へと繋がる「公園文化軸」
- ③ 2軸の交差点にあり、視点場としての魅力を高める「太陽の丘」

「際」「門」：赤穂海浜公園らしい海沿いの空間・接点部の創出

- ④ 海への眺望を確保し、海の世界と園内環境をつなぐ「海の際」と、地域と公園をつなぐポイントとなる「門」
- ⑤ 生物の生息地としても貴重な環境であり、活用と保存のバランスに配慮する「湖の際」

「環」：公園利用を支えるサービス幹線

- ⑥ ランドトレインに加え、移動販売サービス、キッチンカー出店などの展開を見据えた「パークロード」
- ⑦ 施設間を有機的に繋ぐ、休憩・遊び機能を持つ「ロードサイド空間」

「地」：多様なパークライフの舞台となる広場

- ⑧ 遠足、地域の日常的な憩い、親子での遊び、レクリエーション等の多様なシチュエーションで使いやすい、個性ある広場空間

⑨ 「テーマ型施設」：利用目的が明確な施設

立地環境を活かした  
リノベーションの目標像

- 赤穂海浜公園の持つ多様な海浜環境を活かした、海の魅力を体感できる公園
- 観光利用から日常利用まで、3世代みんなが楽しめる公園

〈空間・利活用の構成図〉



“海に開いた帯状の緑地”を新しいシンボルに

- ・地域住民の日常的な散策利用の多い海岸沿いの遊歩道と、観光客や若者層に人気の高いヤシの並木道の接点部である「海の間」を中心に、海沿いの約1kmの緑地を魅力化。
- ・歩きながら海の景色をダイナミックに体感できる緑地帯に、子どもの水遊び場や親の見守りスペース、海を眺めながら飲食できるスペースなどを複合的に組みこむ。
- ・シンボルを「点」から「線」へ。機能を複合化し、整備・修復なども区間毎に可能とする。

地域住民の日常利用の多い遊歩道やビーチ

赤穂市の「海辺の観光レクリエーションゾーン」の拠点となる魅力形成を目指す

基本方針

子どもを育み、3世代が楽しめる公園づくり

“子ども・3世代”

公園資源を活かし、地域の活性化をもたらす公園づくり

“自然環境”

“塩の歴史”

多様な主体の参画と協働で進める公園づくり

“観光利用と地域利用”

“市民の期待・機運”

目標像

「軸」  
公園を象徴する魅力的な空間

- ①海へのつながりをドラマチックに演出する「海への眺望軸」
- ②2つの湖や特徴ある公園施設・広場を横断して漁港へと繋がる「公園文化軸」
- ③2軸の交差点にあり、視点場となる「太陽の丘」

「際」「門」  
赤穂海浜公園らしい海沿いの空間・接点部

- ④海への眺望を確保し、海と園内環境をつなぐ「海の際」と、地域と公園をつなぐポイントとなる「門」
- ⑤生物の生息地としても貴重な環境であり、活用と保存のバランスに配慮する「湖の際」

「環」  
公園利用を支えるサービス幹線

- ⑥ランドトレインに加え、移動販売サービス、キッチンカー出店などの展開を見据えた「パークロード」
- ⑦施設間を有機的に繋ぐ、休憩・遊び機能を持つ「ロードサイド空間」

「地」  
多様なパークライフの舞台となる広場

- ⑧遠足、地域の日常的な憩い、親子での遊び、レクリエーション等の多様なシチュエーションで使いやすい、個性ある広場空間

「テーマ型施設」  
子どもを育み集客力のある施設

- ⑨赤穂海浜公園らしい歴史や環境を活かした公園施設や魅力ある遊戯施設などの、利用目的が明確で、テーマ性を持った施設

リノベーション方針

立地環境を活かしたリノベーションとその一環となる新規施設導入 <県整備による展開>

“海に開いた帯状の緑地”を新しいシンボルに

●南北軸は「海への眺望軸」として、特に観光目線でドラマチックな景観変化を楽しめる軸線とする。

○ヤシ並木の強化など、「海の際」に向けた軸線を強調する。

○舗装パターンやバナー設置などの検討により他との差別化を図る。

●「太陽の丘」は視点場としてのシンボル性、景観のあり方を検討する。

●東西軸は「公園文化軸」として、多様な施設をつなぎ、歩いて変化を楽しめる軸線とする。

○植栽を整理し、周辺施設へのアクセスや視野の繋がりを確保する。

○赤穂漁港への視線の抜けを意識した整備を行う。

●海と園の接点部について、場所の特性を活かし海の魅力を体感できる施設整備や、関係を隔てるフェンス撤去などの整備を行う。

●現在緑の壁のようにしている植栽帯について、現況の樹林密度や樹種構成を調査し、海への眺望を確保し、憩いの場を内包した、多孔質な緑へと導く整備を行う。

●赤湖・白湖周囲は園内各所から眺められる湖際の伸びやかな景観が美しく、生物の生息地としても貴重な環境である。活用には保全のバランスに配慮する。

赤湖・白湖 : 機能の維持・保全

1. 施設整備による魅力化

●園路沿いでキッチンカーの出店が可能なように、駐車場所や電源などの整備を行う。

●園路から広場のにぎわいが感じられるように園路沿いの樹木を整理する。

2. 植栽環境の改善による魅力化

●多様な利活用に備え、広場でイベント時などに活用可能な電源設備を整備する。

●広場周囲や園地内の樹林について、場所毎の特性に応じて視線を通す明るい樹林へと導くことや、緑陰での利活用が行いやすい樹林整備を行う。

わんぱく広場 : 機能の更新

県民の森 : 機能の維持・保全

●「兵庫県立赤穂海浜公園リノベーション計画(案)」の推進により、魅力的で・利用快適性の高い施設づくりを進める。

●公園外周部の樹林については、防犯や心理的な安心感向上のための管理を行う。

塩の国 : 機能の更新

わくわくランド : 機能の魅力向上

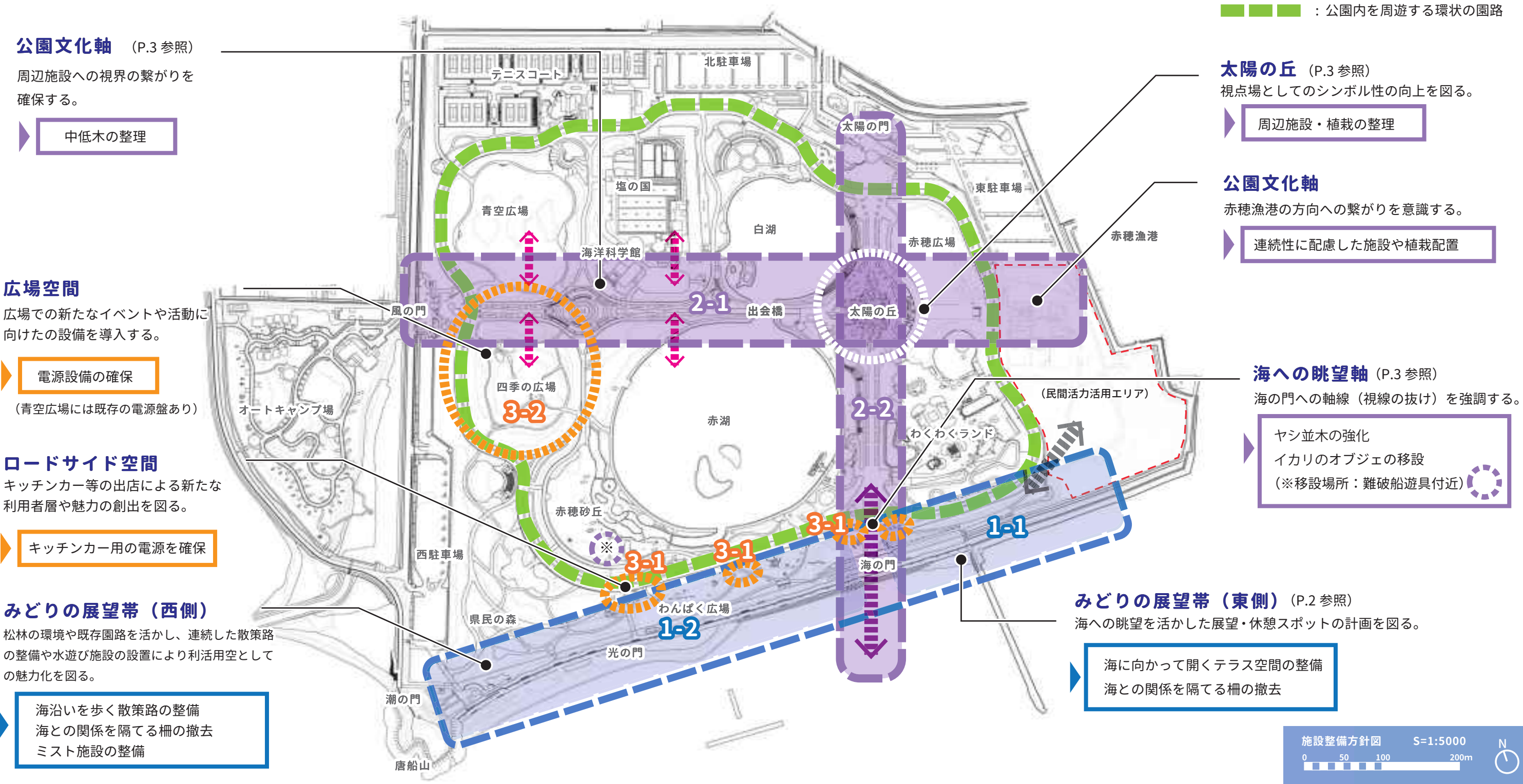
オートキャンプ場 : 機能の維持・保全

テニスコート : 機能の維持・保全

駐車場 : 機能の更新

<民間活力導入による展開>

- 1 目標像** 点から線へ。海と人が主役の新たなシンボルの創出。
  - ・現在は海との関係が希薄になっている海沿い空間を、シーサイドウォークを楽しめる「みどりの展望帯」として整備する。
  - ・3世代が楽しめる多様な機能を組み込み、海に憩う風景そのものがシンボルとなることをめざす。
- 2 目標像** 赤穂海浜公園の有する多様な魅力を感じられる象徴的な軸線へ。
  - ・南北軸は「海への眺望軸」として、すっきりとした軸線を強調する景観へ導く。
  - ・東西軸は「公園文化軸」として、多様な公園内外の活動や環境が垣間見える変化が楽しい軸線を目指す。
- 3 目標像** より多様な活動が行える園路沿いや広場空間へ。
  - ・歩いて楽しいロードサイド空間の魅力化に向けて、キッチンカーの出店などが可能な整備を行う。
  - ・広場空間の活用に向け電気設備を確保する。



**公園文化軸** (P.3 参照)

周辺施設への視界の繋がりを確保する。

- ▶ 中低木の整理

**広場空間**

広場での新たなイベントや活動に向けたの設備を導入する。

- ▶ 電源設備の確保  
(青空広場には既存の電源盤あり)

**ロードサイド空間**

キッチンカー等の出店による新たな利用者層や魅力の創出を図る。

- ▶ キッチンカー用の電源を確保

**みどりの展望帯 (西側)**

松林の環境や既存園路を活かし、連続した散策路の整備や水遊び施設の設置により利活用空としての魅力化を図る。

- ▶ 海沿いを歩く散策路の整備
- ▶ 海との関係を隔てる柵の撤去
- ▶ ミスト施設の整備

■■■■■ : 公園内を周遊する環状の園路

**太陽の丘** (P.3 参照)

視点場としてのシンボル性の向上を図る。

- ▶ 周辺施設・植栽の整理

**公園文化軸**

赤穂漁港の方向への繋がりを意識する。

- ▶ 連続性に配慮した施設や植栽配置

**海への眺望軸** (P.3 参照)

海の門への軸線(視線の抜け)を強調する。

- ▶ ヤシ並木の強化
- ▶ イカりのオブジェの移設  
(※移設場所: 難破船遊具付近)

**みどりの展望帯 (東側)** (P.2 参照)

海への眺望を活かした展望・休憩スポットの計画を図る。

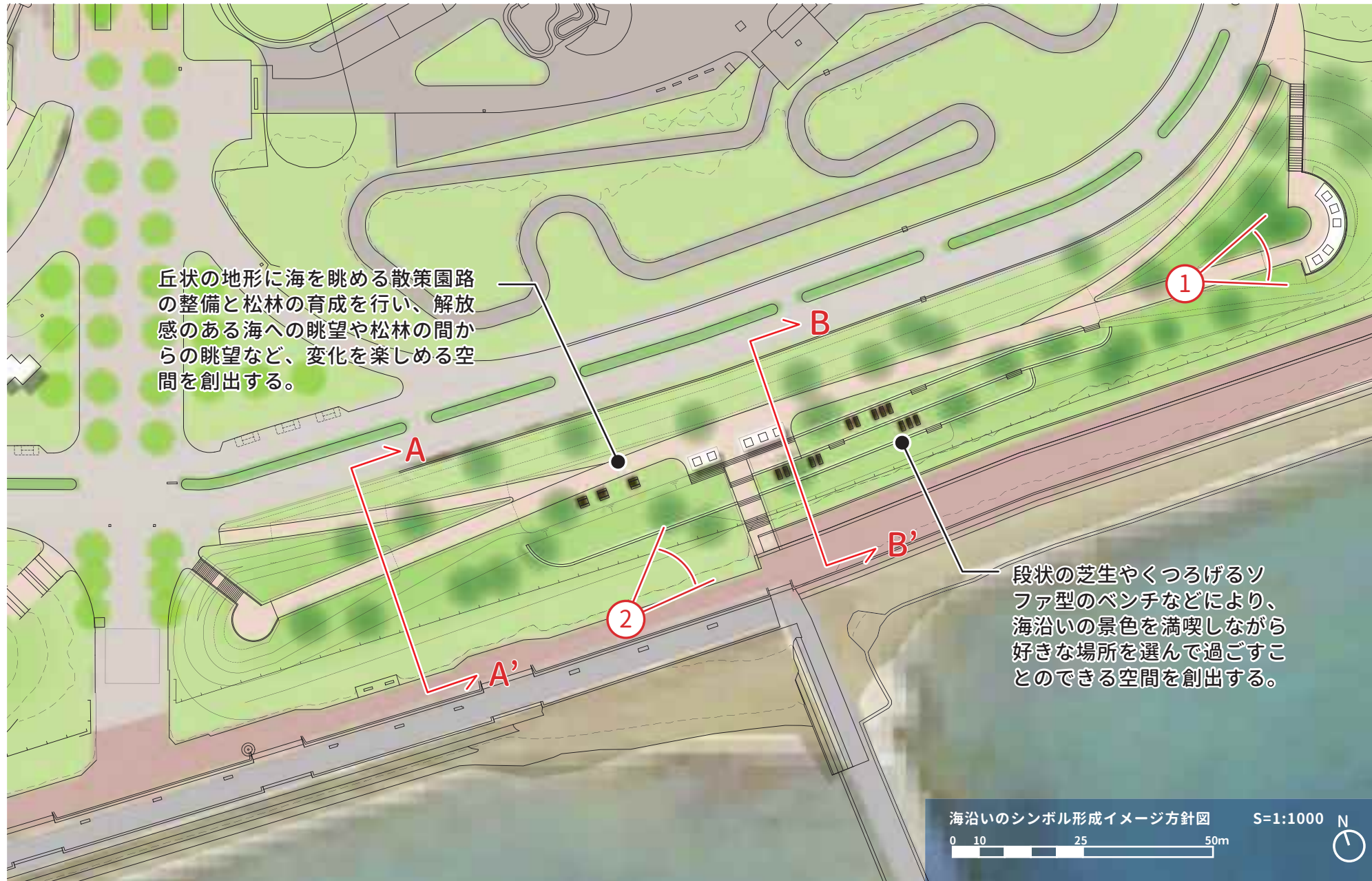
- ▶ 海に向かって開くテラス空間の整備
- ▶ 海との関係を隔てる柵の撤去



1-1 みどりの展望帯 (東側)

※松林は10年後のイメージ

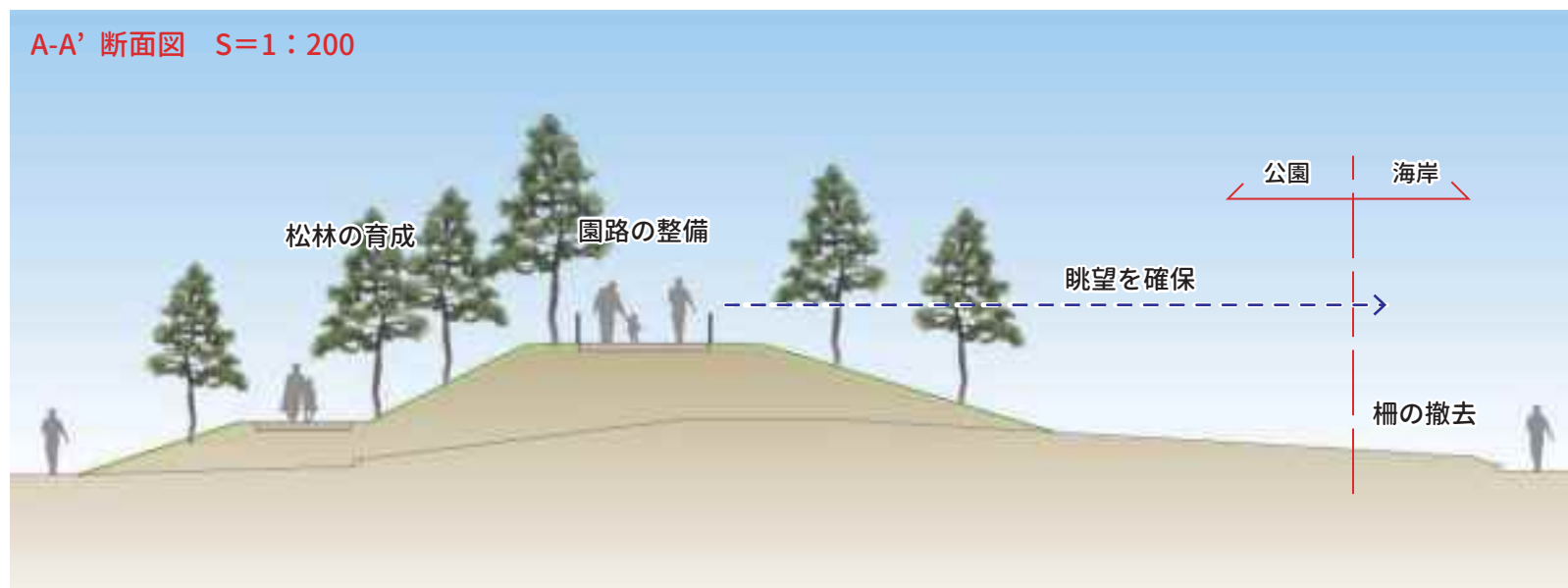
① 御崎方面まで見渡せる展望・休憩スポット



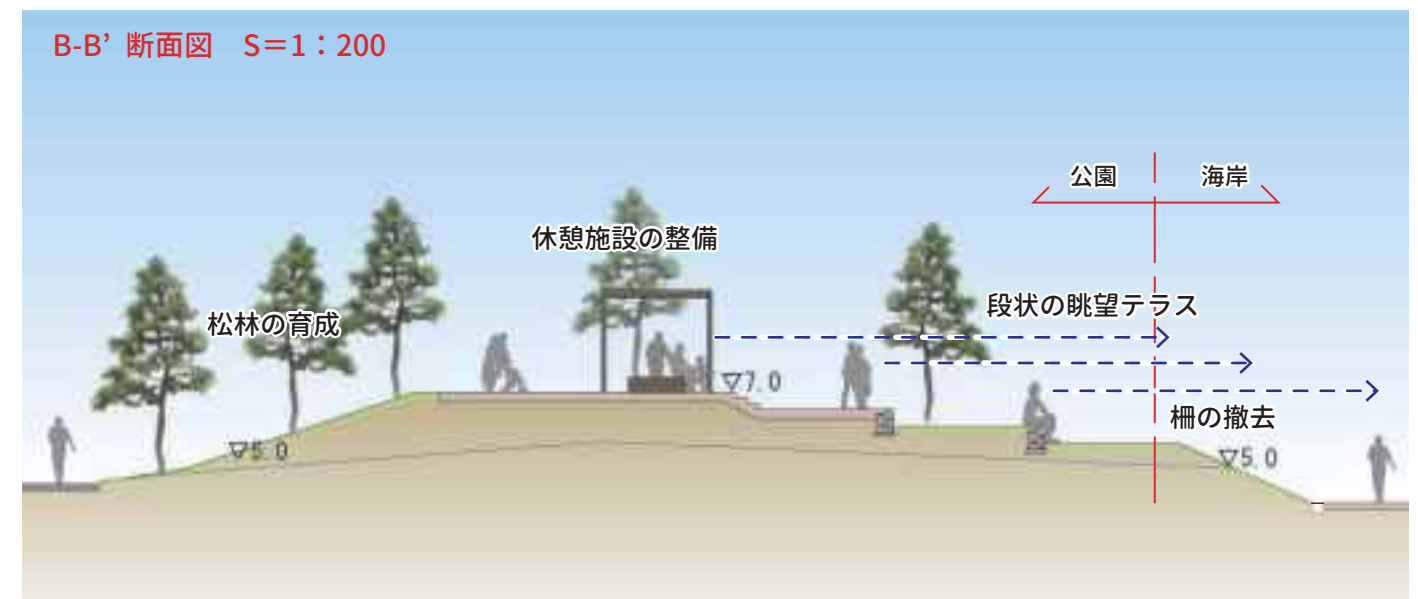
② 段状のテラスでくつろげる展望・休憩スポット

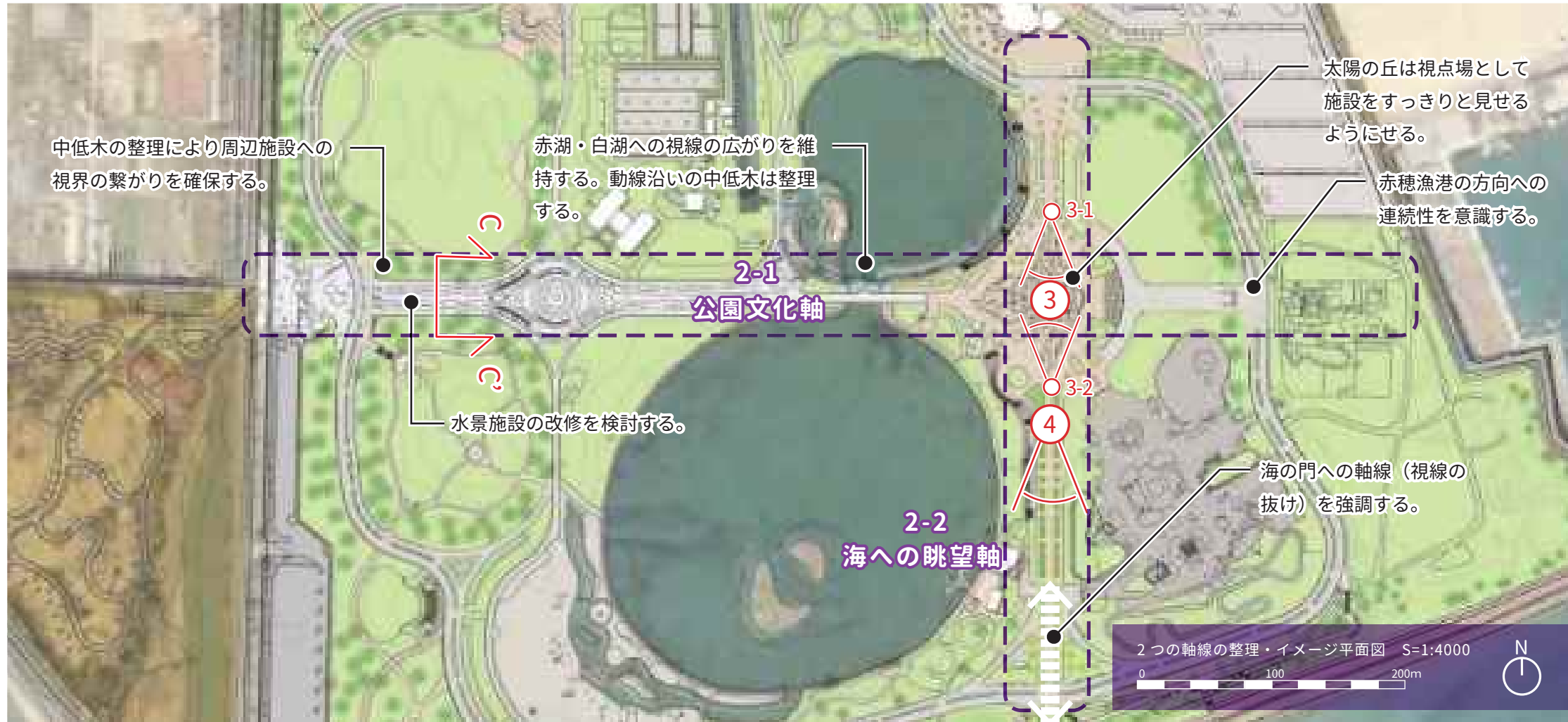


A-A' 断面図 S=1:200

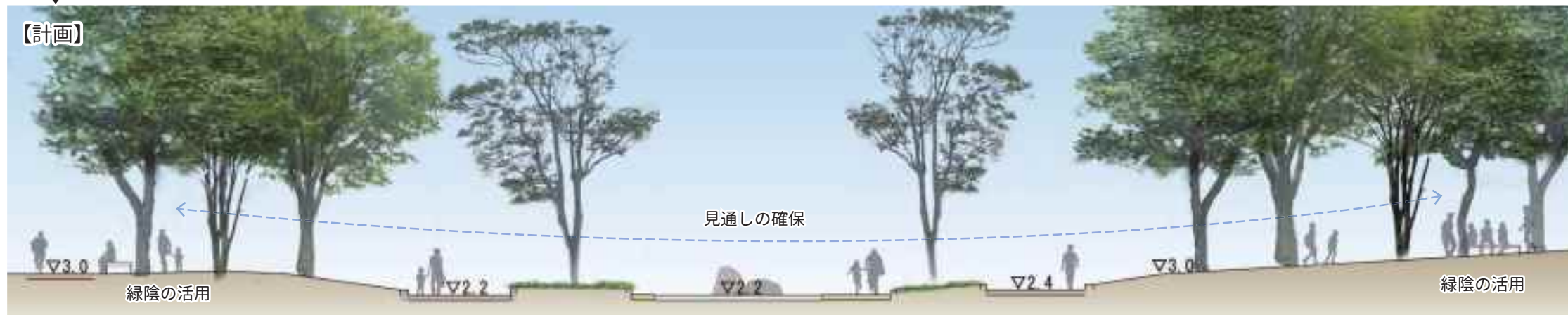


B-B' 断面図 S=1:200





C-C' 断面図 S=1:200



③ 視点場としてのシンボル性の向上

現在は緑と一体化して山のように見える太陽の丘は、中低木を整理することで石積みや階段などの構造物を際立たせ、園内を見渡せる貴重な「視点場」としての存在感を出す。

○ 3-1



○ 3-2



④ ヤシ並木による海の門への軸線を強調

南北軸はヤシ並木で軸線を強調し、海への繋がりを妨げるオブジェは移設し、ヤシの木は移植または撤去する。軸線上は周囲と異なる舗装とし、海との繋がりを強調する。



※イカリのオブジェは難破船遊具付近に移設する。